



HERO LABO

toward a society where everyone can be a hero. 2022.12. vol.1



みんながヒーローになれる社会をつくる。

樋口総合研究所がお送りする新メディア「ヒロラボ」が誕生！
「みんながヒーローになれる社会をつくる」というビジョンのもと、
スーパーヒーローじゃない、
私たちの、私だけのヒーローを紹介していきます。

あなたにも、
ヒーローになれる場所がある。

INTERVIEW.

日本ラグビーフットボール協会
清宮克幸氏



樋口総合研究所
樋口陽平

HERO LABO

toward a society where everyone can be a hero.



INTERVIEW. 「誰にでも活躍できる場所がある」 社会を目指して

日本ラグビーフットボール協会
清宮克幸氏 × 樋口陽平

創刊号のゲストは、日本ラグビー界の名将・清宮克幸氏。スタープレイヤーだけが輝くスポーツではないラグビーで、現役時代から幾度となくチームを頂点へと導いてきた清宮氏と、みんながヒーローになれる社会を目指す樋口総合研究所の代表・樋口氏の対談が実現。スポーツとー、一見かけ離れた世界に思えるふたつの共通点は「人」。ふたりのリーダーが描くチームマネジメント論をお届けします。

チームの課題を超えて生まれる やりがいと責任感と連帯感

——まずは、今回の対談に至った経緯から教えてください。

樋口 清宮さんは、僕の出身大学である早稲田大学の先輩です。僕が参加している早稲田大学出身のベンチャー企業経営者が集まる「ベンチャー稲門会」という会でご縁をいただきました。たまたまゴルフを一緒に緒させていただく機会があったので、「この「ヒロラボ」創刊号にぜひ出ていただきたい！」と相談したところ、お受けいただきました。今日はよろしく願います。

清宮 この相模大野にオフィスを構えているっていう時点で、やりたいことが半分以上くらいわかります。ここに根を張って、ここから地域を変えていくんだ！ っていう想いを感じます。

——樋口総合研究所は「みんながヒーローになれる社会をつくる」というビジョンを掲げています。ひとりのスーパースターの活躍ではなくチーム力で勝つラグビーとも通じる何かがあるのではないかと思います。

清宮 「何でもできる子」というより「何が得意で何が不得意」という子たちが、いろいろなスポーツを経た上でラグビーに入ってきます。その長所を生かしながらチームを作るのが、ラグビーの魅力のひとつ。だから、身体の小さい人も大きい人も太った人も、みんながそれぞれ長所を生かしてチームに貢献する。選手を育てていく中で、できることを伸ばすこととできないことを克服するのは対なだけで、できないことをでき

るようになったところで一人前になるだけ。だから長所を伸ばすんです。僕が育ってきた環境には、スーパーマンはあまりいませんでした。高校・大学の学生時代も、最後に監督をしていたヤマハも、トップ選手が入ってくるチームではなかった。だから、スーパーマン、トップアスリートが集まらないチームでも勝てるんだ、というのをやってきました。

樋口 清宮さんのセミナーに行かせていただいたことがあるのですが、清宮さんは「ついていったら勝てそう！」と思わせてくれるリーダーだと思っています。具体的に選手たちをどう育てていくのですか？

清宮 きっかけは僕が作ったとしても、その後変わっていくのは選手たち自身です。例えば、「日本のチームで俺たちしか組まないスクラムを作ろう」というお題を出す。じゃあフランスへ行ったらスクラムを勉強しよう。なぜフランスかいと、その頃、日本のラグビーはニュージーランド人やオーストラリア人がコーチングしていたから。思想が違う人たちのやっていることを勉強して、それを自分たちのオリジナリティにしよう。そこまでは僕が言います。でもそこから先は選手たちの領域、もう僕の仕事はない。そういう経験をさせるとね、選手たちのマインドは変わります。つまり、何かひとつの山、チームの課題をみんなと一緒に超えることで、やりがいと責任感と連帯感が生まれる。その上で結果がついてきたら、次は愛II絆になるんです。そうすると、チームに対するロイヤリティも自然とついてくるというところ。

みんなが
ヒーローになれる
社会をつくる。

相模大野に[Best Workplace]が誕生

2022年5月、相模大野に移転リニューアルした神奈川本社。樋口総研らしい働き方を追求したワークスペースは、機能的で働きやすい空間です。

今年で13年目を迎えた樋口総合研究所。神奈川本社が小田急線・相模大野の駅前(徒歩1分)に移転リニューアルしました。出向している社員が多いので普段会社にいるのは少数ですが、いつでも帰って来られる、何かあればいつも誰かがいて力になってくれる、そして何より働きやすい場所であるように、このオフィスを作りました。営業部、総務部、エンジニアの仕事スペースに加えて、2つのミーティングルームと最小限のカフェスペース。スタイリッシュな空間にやわらかなグリーンのアクセントが素敵なベスト・ワークプレイスです。



エントランス



ミーティングルーム1



ミーティングルーム2

私だけのヒーローな [モノ・コト・ヒト]

これで元気が出る、癒される、など。自分にとってのヒーローは、人それぞれ。ここでは、樋口総研社員のちょっとしたヒーローをご紹介します。

パンがなければラーメンを食べればいいじゃない。

キングオブ塩分 「塩そば専門店 桑ばら」

池袋東口サンシャインシティ裏にある塩専門のラーメン屋。この店、ただの塩そばではない。1杯で2.5日分の塩分を摂っているのでは？ と不安に思うほど塩分の主張が強い。だがこれが最高に旨い。卓にある柚子胡椒は心の友。まさに塩分の暴力&最高権威。塩はあっさり？ いいえ幻想です。(谷口奈子)



研究員Sの『押しモノガタリ』

心裏を思慮する物語 西 加奈子「窓の魚」

一言で、ジャンルのない物語。「サラバ」などの力強さや、関西色が濃い西加奈子さんの作品では異端の小説。恋愛でもミステリーでも青春でもなく、明確な答えもない。繊細な情景と、混濁した心裏に読ませる余韻。私が初めて読んだ小説でもあり、改めて小説の読み方を考えさせられる作品です。(清水崇)

